



事業名：海と地域のつながりを見つける「うみやまかわ新聞」の制作（日本財団海洋教育促進プログラム）

## 中間報告書

2016.8

特定非営利活動法人離島経済新聞社作成

## <目的>

これまで離島経済新聞社が培ってきた「他者・他地域との連携促進」「ICTの利活用促進」「日本を広く捉える観点の醸成」「自らが暮らす地域への誇りの醸成」といった施策実績とそのノウハウを用いて、「海」を起点に「山」「川」へとつながり、再び「海」へ還る「海」「山」「川」の水のつながりを元に、山・川も含めた自然環境や文化、歴史、経済など、多角的かつ包括的な視点から各地域における「海」の重要性を学び、地域を担う人材育成につながる海洋教育の機会創出とその実施を目的とする。

---

## <目標>

- ・メディアの制作過程で「地域を取材する（掘り下げて研究する）」作業を重ねることで、自らが暮らす地域における「海」との関わり、その重要性を見つめ直し、新しく学ぶこと。
- ・文化、歴史、環境、食など、さまざまな事柄と密接に結びつく海洋教育の必要性を広く訴求する。
- ・チームでの活動により「他者との連携」「ICTの利活用」を身につける。
- ・「他地域との連携」により「日本を広く捉える観点」や「自らが暮らす地域への誇りの醸成」を図る。
- ・「うみやまかわ新聞」の反響により、事業にかかわったことへの誇りを醸成する。
- ・成果物を国内の教育機関へ送り届けることによって「海」「山」「川」でつながる「日本のつながり」を啓蒙する。

## <総合的な学びを得られる学習プログラム>

「うみやまかわ新聞」は小学校高学年を対象にした教育プログラムです。地域学習やキャリア教育としても最適な総合学習プログラムとして、「多面的・総合的にものごとを見て、考える力」「自然や人とのつながりを尊重する心」「情報の基本知識（メディアリテラシー）」などを学び、身に付けることができるアクティブ・ラーニングのモデルカリキュラムです。各地域の教育機関・団体・民間コーディネーターの協力のもと、離島経済新聞社のスタッフなど、プロの編集者を講師に、子どもたちが新聞づくりを実践します。

---

## <企画意図>

日本は6,852島からなる島国であり、領海およびEEZ（排他的経済水域）は世界6位規模という海洋国家。

本土5島と418島の有人離島には多様な「海」「山」「川」があり、歴史や文化を醸成してきた「水をつながり」があります。

島国に暮らす人々は皆、それぞれの地域にある「海」「山」「川」から「恵み=幸（さち）」や「つながり」といった恩恵を受けながら生きているといっても過言ではありません。

いま、島国の20～30年後を見据えたとき、存続の危機に立たされている地域は少なくありません。

しかし、日本各地にある、多種多様な自然や文化に含まれる「恵み」や「つながり」は、そのものが島国の価値であり、土地土地に暮らす人々の「誇り」や「愛着」の源になるものです。『うみやまかわ新聞』は島国の未来を担う子どもたちが、自分の暮らす土地にある価値を認識し、島国の価値である多様性を総合的に学べるよう

「うみやまかわ」をテーマに新聞づくりを行う総合学習プログラムとして企画いたしました。

## <本学習プログラムを通して得られる6つの学び>

### 1.多面的・総合的にものごとを見て、考える力

社会を多面的に捉える「新聞」をつくる過程で、ものごとをさまざまな角度から総合的に見る力（広い視点）や考える力を養うことができます。



### 2.自然や人とのつながりを尊重する心

身近にある自然（海・山・川）と他地域の自然を比べることで、自然や人とのつながりを尊重する心を育むことができます。



### 3.地域や国に対する愛着と誇りの育成

プログラムに参加する他地域との交流を通して「他を知り自己を知る」ことで、地域や国に対する愛着と誇りを育むことができます。



### 4.他者と協力するコミュニケーション経験

一緒に新聞をつくるチーム、他地域の生徒、講師陣、地域の大人といったさまざまな他者と協力しながら新聞づくりを進める経験により、コミュニケーション力を養うことができます。



### 5.ICTを活用したプロジェクトを実践する経験

パソコン、タブレット、テレビ電話などの情報ツールを使用し、ICTを活用したプロジェクトに参加・実践することで、専門的な経験や知識を養うことができます。

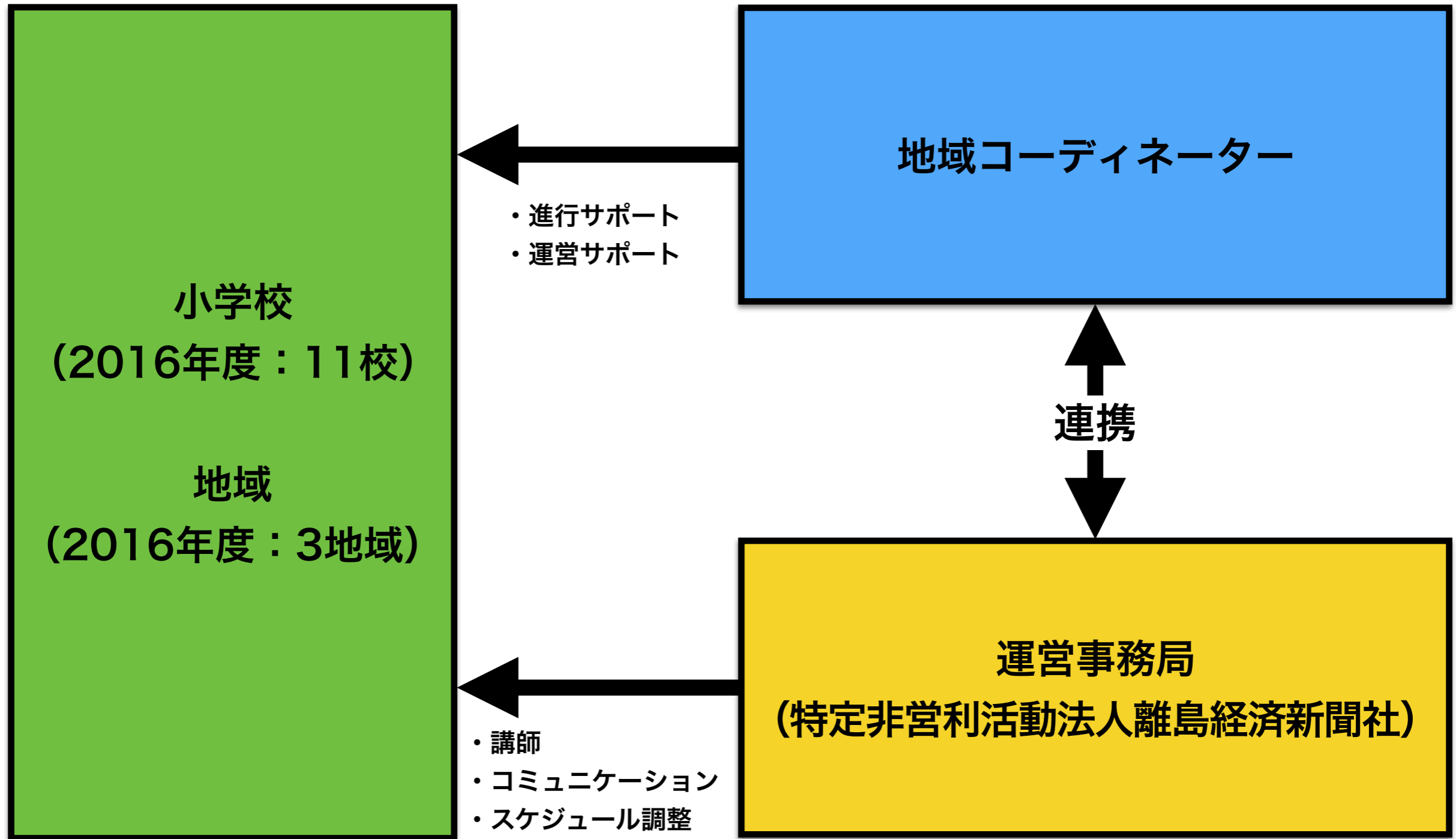


### 6.情報の基本知識（メディアリテラシー）

情報メディアの基礎である「新聞」づくりをプロに学ぶことで、社会のなかでどのように情報がつくられ伝わっていくかという「情報の基本知識」を得ることができます。



うみやまかわ新聞 2016年度体制図



<年間進行スケジュール>

スケジュール	学校	地域コーディネーター	運営事務局	プログラム内容
2016/4月	年間授業時間割確定 (各校、年間の授業日程を決めていただきます)			全体カリキュラム確定 ツール類を各校・地域へ
2016/5月	地域コーディネーター研修 5月28 (土)・5/29 (日) 実施			
2016/6月	プログラム実施期間 (~3月) ※各学校のスケジュールにより、開始時期は前後します。			
2016/7月				
2016/8月				
2016/9月				(1) つかむ①~ (6) 作る
2016/10月				
2016/11月				
2016/12月	うみやまかわ新聞 原稿・イラスト完成 (12月第1週)		デザイン 期間	
2017/1月				印刷期間
2017/2月	発表会 (2月19日 (日) 予定) / 展示会 (発表会から1週間程度)			
2017/3月				配布・振り返り期間 (7) 伝える (8) 深める

＜導入営業ツール＞

導入に向けた営業活動として、プログラムの概要をまとめた資料（A4/2P）と、各単元の内容や必要な時間数、導入に際しての注意点などをまとめた資料（A4/16P）を制作。導入希望地域に対して、細かい実施内容や前年度までの実施実績からのポイント、カリキュラムの組み方等を明確に説明することで、小学校に対して導入しやすい提案を実現。

プログラム詳細資料



2016年度年間計画・カリキュラム



## <導入小学校・地域>

全国14カ所の11校（小学校）と3地域が本事業を導入。

※小学校・地域のどちらの導入でも内容に差異が生じないように、小学校の45分一コマの授業時間枠を基本として実施します。

### 【導入小学校】

小学校の授業として、総合学習の時間を活用し、先生方の協力のもと実施します。

- ・千葉県いすみ市立太東小学校（6年生／35名）
- ・東京都江戸川区立二之江第三小学校 1組（6年生／23名）
- ・東京都江戸川区立二之江第三小学校 2組（6年生／22名）
- ・滋賀県近江八幡市立沖島小学校（3～6年生／9名）
- ・岡山県真庭市立落合小学校（6年生／30名）
- ・愛媛県上島町立弓削小学校（6年生／23名）
- ・高知県佐川町立尾川小学校（5・6年生／11名）
- ・大分県日田市立津江小学校（6年生／10名）
- ・長崎県対馬市立豊小学校（5・6年生／8名）
- ・鹿児島県屋久島町立金岳小学校（4・6年生／3名）
- ・鹿児島県和泊町立大城小学校（6年生／10名）
- ・沖縄県うるま市立津堅小学校（3～6年生／7名）

### 【導入地域】

地域団体や役場、教育委員会等が受け入れ先となり、校外活動として実施します。

- ・北海道利尻島（利尻町教育委員会が受け入れ 4～6年生／16名）
- ・山梨県北杜市（一般社団法人 里くらが受け入れ 4・5年生／10名）
- ・長野県木曾町（木曾町農林振興課職員が受け入れ 5・6年生／4名）



# 実施内容

## <授業カリキュラム>

年間20時間（45分授業×20回）を目安に下記8つの単元にて授業を実施します。

1学期終了時点で、すべての地域にて（3）つかむ②の単元まで実施。進行の早い地域では、（6）作るの取材の準備を終えています。

単元	学習テーマ	活動・学習内容	実施時間数
(1) つかむ①	新聞づくりを学ぶ①	・情報の基本やツール、流れを学ぶ ・チームを組む	1時間
(2) 考える①	地域の特徴（課題・魅力など）を考える①	・地域の特徴、特徴、課題を考える ・新聞の特徴を分析する	1時間
(3) つかむ②	新聞づくりを学ぶ②	・情報の取捨選択の仕方を学ぶ ・メディアリテラシーを学ぶ	1時間
(4) 調べる	地域の「うみ」「やま」「かわ」を調べる	・書籍やインターネットを使って地域の「うみ」「やま」「かわ」や特色、特徴などを調べる	宿題
(5) 考える②	地域のテーマ（課題・魅力など）を考える②	・リサーチ結果を掘り下げ、地域のテーマを決定する ・掲載記事候補出しを行う	2時間
(6) 作る	新聞づくりを実践する①	・掲載記事の決定、担当分け ・取材準備～取材～原稿・イラスト制作	12時間
(7) 伝える	新聞づくりを実践する②	・新聞づくりで学んだことを発表する ・広報について学ぶ	2時間
(8) 深める	新聞づくりを通して島国の多様性を学ぶ	・各地の新聞を見比べて島国の多様性を学ぶ ・新聞を見比べて学んだことを発表する	1時間

1～2学期実施

3学期実施

# 実施内容

## <おもな使用ツール>

円滑かつ、わかりやすい授業を実施するべく、独自に教科書・運営マニュアル（A4/60P）を制作。

教科書は児童・先生・地域コーディネーターに、運営マニュアルは地域コーディネーターに配布し、授業運営を行います。

教科書はページごとに学習内容と学習目安時間をアイコンとして表示し、児童・先生にとって分かりやすい教科書を実現。

教科書「うみやまかわノート」



運営マニュアル「コーディネーター用マニュアル」



# 実施内容

## <おもな使用ツール>

教科書やコーディネーターマニュアルと併せて、「授業進行スケジュール」を事務局で作成し、毎回の授業前に、学校と地域コーディネーターに配布。授業進行スケジュールには、準備する機材や、授業のシナリオ、時間配分、その他申し送り事項欄を設け、学校・地域コーディネーター・事務局の3者で授業詳細の共有ができています。

## 授業進行スケジュール

利尻島(作る)ノ6・7コマ									
▼体制					▼事前準備				
<b>役割</b>		<b>担当者</b>			<b>事前準備</b>				
運営責任者	大久保昌宏			現地準備	現地準備してもらうものリスト				
運営スタッフ	松本一希			テキスト	パソコン・モニター・プロジェクタノ児童名簿				
講師	上島妙子			機材一式	うみやまかわノート				
地域コーディネーター	高橋哲也・関根智敏			その他	WEBカメラ・マイク&スピーカー・三脚・記録用カメラ				
現地スタッフ	松本一希			その他	前回作成した模造紙				
				入室教室と使用ID					
				入室教室	うみやまかわ新聞				
				使用ID	umiyamakawa003				
日付	時間	アジェンダ	詳細	担当	内容				
準備									
2016/8/21	11:45	12:55	70	休憩	高橋・関根				
	12:55	13:00	5	児童受け入れ	高橋・関根				
日付	時間	アジェンダ	詳細	担当	内容・シナリオ				
プログラム									
	13:00	13:03	3	号令と導入	挨拶と午後の目標	高橋・関根	号令。みなさん、しっかりお昼ご飯は食べましたか？それでは午後の授業を始めたいと思います。午前中は利尻島のテーマを決めました。利尻島のテーマは「◎◎◎」です。午後は、決まったテーマをもとに、どんな記事を書けるかみんなで話し合っていていきます。それでは、午前中に引き続き、上島先生お願いします。		
	13:03	13:07	4	P.26 5-1	新聞作りで気をつけること	上島	みなさん、それでは早速午後の授業を始めます。うみやまかわノートの26ページを開いてください。午前中の授業ではリサーチをしてきた内容をチームごとに発表してもらい、地域のテーマを決めました。いよいよ本格的な新聞作りに入っていきます。まず、新聞作りの時に気をつける5つのことを考えてみましょう。復習になりますが、26ページの①～⑤の内容について、それぞれどうなるかわかりますか？(復習になるので、簡単に教室に聞いて答えてもらおう。4分)		
	13:07	13:10	3	P.26 5-1	新聞作りで気をつけること	上島	みなさん、考えようの部分教えてくれてありがとうございました。さて、続いて26ページの下、ポイントの部分を見てください。インターネットや本に掲載されている内容だからといって……というわけではありません。(ポイントの説明:3分)		
	13:10	13:16	6	P.27 5-1	新聞作りで気をつけること	上島	さて、続いては27ページを開いてください。新聞や本などのメディアを作るプロは必ず「編集」という作業を行います。編集とは……です。それでは、画面を見てください。編集する時に大事なことをイラストで紹介したいと思います。(編集とは、編集するときに大事なことをスライドに沿って説明:6分)		
	13:16	13:23	7	P.27 5-1	新聞作りで気をつけること	上島	27ページの下を見てください。先ほど、編集する時に大事なことを説明しましたが、みなさんはすでに新聞を編集するときに大事なことを実際にいくつか行ってきました。これから時間をとるので、みんなが作るうみやまかわ新聞が一番伝えたいこと、そしてどんな情報を集め、集めた情報から何を選んだのかヒントを参考に、今までの学習を思い出して記入しましょう。(地域のテーマ「◎◎◎」と、25ページに記入した掲載記事の候補の記入:7分) ※26ページの下に記入する内容は「地域のテーマ」と「掲載記事の候補」です。どちらも既に決まった内容を記入してもらっています。ここでは、掲載記事を決めるにあたり、どのような記事がいいのか今一度振りかざることが目的です。		
	13:23	13:24	1	P.27 5-1	新聞作りで気をつけること	上島	時間調整:1分		
	13:24	13:29	5	P.28、29 5-2	掲載記事を決めよう	上島	続いては28ページを開いてください。みなさんが作るうみやまかわ新聞には、各地域1ページ、5つの記事を書きます。どんな記事を書けるか考えましょう。5つの記事の大きさは、大きい記事だと600文字と写真、イラストが2枚、中くらいの記事だと…、小さい記事だと…です。5つの記事を決めるときに、一番伝えたい内容はなにか、地域のテーマに合っているかなど、記事の優先順位を考えましょう。その際に、どんな写真やイラストを書きたいかをイメージしておくといいですね。また、記事に盛り込む内容が多いか、少ないかによって、記事の大きさを考えることも大事です。6時間目から実際に決めていきたいと思います。(28ページの説明:5分)		
	13:29	13:32	3	P.28、29 5-2	掲載記事を決めよう	上島	それでは、皆さん。これからクラスで話し合って新聞に掲載する5つの記事を決めていきましょう。先ほど発表してもらった、掲載記事の候補を参考に決めていきたいと思います。現場の高橋さん、関根さん、松本さんどのように決めていくのがいいでしょうか？(話し合いの進め方共有:3分)		
	13:32	13:58	26	P.28、29 5-2	掲載記事を決めよう(続き)	上島	みなさん、それでは話し合いを進めてください。よろしくお願いたします。(話し合い:15分)		
	13:58	14:00	2	P.28、29 5-2	掲載記事を決めよう	上島	みなさん、新聞に掲載する5項目が決まりましたね。前回の授業で決めたテーマにも沿っていて、とてもいいですね。決まった5項目は29ページに書き込んでおきましょう。書き終わったら休憩してください。		
	14:00	14:10	10	休憩					
	14:10	14:20	10	P.28、29 5-2	掲載記事を決めよう	上島	さて、みなさん戻ってきましたか。先ほど、新聞に掲載する5項目が決まりました。29ページに掲載記事は書いてありますか？続いては5つの記事の担当を決めます。これから少し時間を取るので、どちらのチームの誰が担当するのか、みんなで話し合っていてください。(担当記事決め:10分)		
	14:20	14:23	3	P.30、31 5-3	掲載記事の取材先を決めよう	上島	みなさん、自分たちの担当する記事が決まったら、29ページにしっかりメモしておいてください。それでは、掲載する5項目と担当が決まったところで、残りの時間はどんな取材方法があるのか、取材先はどこがいいかなどを考えていきます。30ページを開いてください。取材には大きく2種類の方法があります。直接取材とリサーチ取材です。直接取材とは…です。リサーチ取材とは…です。(取材方法の説明:3分)		
	14:23	14:38	15	P.30、31 5-3	掲載記事の取材先を決めよう	上島	それでは、残りの時間で、自分の担当する記事について、チームごとにどんな取材方法がいいか、考えましょう。取材方法が考えられれば、どんな取材先があるかを話し合ってから31ページの枠の中に記入しましょう。(取材方法・取材先の候補出し:15分)		
	14:38	14:44	6	P.30、31 5-3	掲載記事の取材先を決めよう	上島	取材先、取材方法が考えられれば、班ごとに発表してもらいたいです。発表の準備ができたチームから発表をお願いします。なぜ、その取材方法、取材先を選んだのか、理由も発表してください。(取材方法、取材先の案について発表:6分)		
	14:44	14:47	3	学んだこと	今回の学習で学んだこと	上島	今回の学習では、うみやまかわ新聞について、…などを学びました。残りの時間で、31ページの下にある「面白かったことや印象に残ったことをメモしよう」の欄に今日の授業の感想や学んだことなどを記入しましょう。		
	14:47	14:50	3	まとめと号令	まとめと号令	高橋・関根	(時間調整。時間になったら、教室にて終わりにしてください)それでは、今日の授業はここまでしたいと思います。1日お疲れさまでした。号令お願いします。		
<p>&lt;申し送り事項&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の始まりと終わりはコーディネーターにて進めてください。</li> <li>また、紙面に掲載する5項目が決まったら、それぞれどのような取材方法や取材先で取材をしていくかを考えます。事前に掲載する5項目や、取材先等を想定していただくと幸いです。</li> </ul> <p>&lt;今日の授業内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の授業では、新聞作りで気をつけることを復習し、編集するときに大事なことを学びます。その後、新聞に掲載する5項目を決め、取材方法や取材先を考えます。</li> </ul> <p>&lt;今日の目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の目標は、新聞作りで気をつけることを学び、紙面に掲載する記事を決めます。また、掲載が決まった記事の取材方法や取材先を考えることです。</li> </ul>									

2016.8

特定非営利活動法人離島経済新聞社作成

# その他（広報・PRなどについて）

## ＜おもな制作物＞

季刊ritohei（リトケイ）17号・18号にて広報・PRを目的に広告掲載。



季刊ritohei（リトケイ）17号



季刊ritohei（リトケイ）18号



## <活動報告ブログ>

毎授業の内容を文章と写真で紹介するブログを設置。ブログに掲載する文章・写真は地域コーディネーターにまとめていただいています。



<p>対馬市立豊小学校にて授業を実施。地域のテーマを決定</p>	<p>鹿児島県屋久島町立金岳小学校で授業を実施</p>
<p>6月29日、福岡県と韓国との間に浮かぶ群島「対馬」の最北部にある豊小学校にて、第3回目の「うみやまかわ新聞」の授業を行いました。</p> <p>この日の授業では、宿題でリサーチしてきた内容をチームのみんなで共有し、地域の「うみ」「やま」「かわ」について発表しました。</p> <p>次に、担任の先生を中心にクラス全員で真剣に意見を出し合い、テレビ電話会議越しの講師からも助言をいただき、今年制作する「うみやまかわ新聞」の地域のテーマを決めました。</p> <p>長崎県対馬市立豊小学校のテーマは、「上対馬と韓国の今と昔そして未来へ」。</p> <p>その後、新聞に掲載する記事の候補を考えましたが「かわ」の候補を出すのにみんな苦戦していました。</p> <p>今回は初めての他地域との交流授業を予定していて、子どもたちも今からとても楽しみな様子です。</p> <p>長崎県対馬市地域コーディネーター 細井</p>	<p>愛媛県上島町立弓削小学校で2回目の授業を実施</p> <p>6月29日、愛媛県上島町立弓削小学校で2回目の授業を行いました。</p> <p>自分の暮らす地域にどのようなうみ・やま・かわがあるかを考え、地域の特色を分析しました。弓削小学校は弓削島という島にある学校なので、海に関する情報はたくさん挙がりましたが、海に関する情報は思い浮かべない様子でした。</p> <p>また、この日は伊勢原-津堅小学校との交流もあり、同じ「島」という環境でありながら、似ている点や異なる点を学ぶことができました。</p> <p>愛媛県上島町地域コーディネーター 藤巻</p>

### ▼ブログ内容の一部

<2016年6月22日（水）実施>

千葉県いすみ市太東小学校 第3回目授業の活動ブログ

3回目の授業となったこの日は、今年度初めての他校との交流授業。テレビ電話を接続して、遠く離れた地域の小学生同士と一緒に授業を行い、お互いの地域について質問をしたり、授業で考えたことなどを発表し合いました。お相手は瀬戸内海に浮かぶ愛媛県上島町弓削島の弓削小学校の6年生たち。大いに盛り上がりましたが、一番のピークは「弓削島にはコンビニと信号が無い」と教えてもらったとき。驚いて、いろんな日本の地域があることに視野が広がったようです。弓削小の子どもたちの発言内容を箇条書きにしてまとめている子たちもいました。

<2016年6月29日（水）実施>

鹿児島県屋久島町立金岳小学校 第3回目授業の活動ブログ

6月29日、鹿児島県口永良部島の金岳小学校で3回目の授業を行いました。初めての交流授業で同じ鹿児島県の沖永良部島にある大城小学校と接続。同じエラブジマだけれども、食べ物、自然など色々な違いに気づき、新聞作りのテーマ決めにも大変有効であったと思います。

＜掲載紙面＞

各地域の新聞社にうみやまかわ新聞の取り組みを紹介していただきました。



2016年6月9日 奄美新聞 3面

2016年7月1日 奄美新聞 10面



2016年7月6日 愛媛新聞（日刊） 20面

## ＜地域コーディネーター向けに研修を実施＞

授業を始めるにあたり、各地域の地域コーディネーター（14地域/16名）に東京へ集まっていただき、1泊2日の研修を実施。研修では、うみやまかわノートやコーディネーターマニュアルを使用し、機器の接続・操作方法から授業の進め方、ポイントなどをレクチャー。前年度から参加している地域コーディネーターにもアドバイスをいただき、授業の意義や目的を参加者全体で共有することができた。

## ＜研修の様子＞



2016.8

## <前半授業進捗について>

6月までに全地域で順次授業がスタートし、新聞作りの流れや使用するツールなどについて学んだ。自分の暮らしている地域について知っている「うみ」「やま」「かわ」の情報を書き出し、地域の特徴・特色を分析を行った。今年度は1学期中に10回の地域間接続授業を実施。特に少人数の地域では、普段接することのない同年代児童との交流に緊張する様子もあったが、時間の経過と共に緊張がほぐれ、接続先の地域のことや学校生活について積極的に質問をしたり、相手地域の児童の発表内容をメモする姿が見受けられた。地域間交流を行うことで、自分たちの暮らす地域の自然の素晴らしさを再認識し、その後の新聞づくりに活かすことができている。前半授業ではどの地域もスケジュール通りに進行できしており、事前実施計画からの変更もなく順調に進行管理ができている。

## <地域間接続の様子>



長崎県対馬市立豊小学校（画面左上）と鹿児島県和泊町立大城小学校（画面左下）の交流



愛媛県上島町立弓削小学校の児童が沖縄県うるま市立津堅小学校の児童と交流